令和５年度　第２回滋賀県公立大学法人評価委員会開催結果（概要）

日　時　　令和５年７月１３日（木）
　　１４時１５分～１６時３０分
場　所　　公立大学法人滋賀県立大学　湖風会館

【出 席 委 員】　浅田委員長、秋葉委員、中田委員、山本委員
【事　務　局】　小林私学・県立大学振興課長、他関係職員
【県 立 大 学】　井手理事長（学長）、宮川副理事長、小泉理事、松岡理事、中嶋理事、
　　澤野事務局次長、他関係職員

開会

〇委員、大学および事務局の出席者紹介
〇委員会の進め方について
・委員会の進め方について、事務局から説明

【議題】
１　令和４事業年度に係る業務の実績に関する評価について

・令和４事業年度における業務の実績について、大学から説明
・論点整理資料について、事務局から説明

（委員長）年度計画の１番について、学生と行政職員のスキルアップにつながったと記載があるが、アンケートなどをとって得た結果なのか。職員のスキルアップとはどういう内容か。

（大学）プログラム終了後に実施した参加者からのアンケート結果を反映している。自治体職員からは、学生の意見をもらうことで政策のアイデアや移住者を受け入れやすい仕組みなどについて気づきや刺激を受け、今後の政策立案につなげるヒントをもらえたという回答があった。

（委員）地域にとってもよい取組で、評価案は妥当だと思う。もう少し良さを引き出せるコメントに直せないか。

（委員長）コメントで、自治体職員の育成につなげたとあるが、そこまで及んでいないのではないか。育成とは育成プログラムがあって、着実に進めていくも

の。今回は、学生と協力したことによって、自治体職員がいい刺激を受けて、その出発点ができたのであろうと思う。取組としては、学生と自治体職員が一体となって動くことによって、学生の新鮮な発想であるとか、それぞれの仕事、業務に活かされることがあったのだろうと思うが、育成と書くと、書きすぎではないかと思う。

（委員）年度計画３番の入試について、「情報Ｉ」の導入と併せた一般入試選抜の科目の見直しや、推薦型選抜の奨学金の記載など、計画に対応した判断理由やコメントがある。一方で、計画に記載されている学力の３要素の測定につながる記載がないので、記載があった方がつながりが良いと思う。

（大学）学力の３要素、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協働性・多様性」のうち、「知識・技能」については、ペーパーテストできちんと見ることができていても、後の２つについて、十分に見られているかどうかという議論があった学科については、「知識・技能」以外の要素を見るために、ある学科では総合問題、別の学科ではグループディスカッションというように、令和７年度入試から変更するようにした。

（委員長）そういう内容を少し加味すると計画と実績がつながると思う。加えたらどうか。

（事務局）修正させていただく。

（委員長）奨学金の関係は前倒しで実施したということだが、どれくらい大変なことをされたのか。

（大学）滋賀県全体として、看護師の需要が多いということで、県が奨学金制度を設け、本学を含め３つの大学でこの制度を実施することとなった。本来なら、入試の科目については実施の２年前までに公にすることとなっているが、制度設計について事前に文科省にも相談し、科目等の内容は従来の特別選抜と同じで、一般選抜前期の枠を減らして実施する形であれば、２年前ルールに反しないなどの指導をいただき、前倒しでの実施

に至った。

（委員）年度計画の 24 番、リカレントのニーズについて、書きぶりなどはこれでよいが、大学としての感触を教えて欲しい。

（大学）参加者へのアンケートでは、日々の業務に追われる中では気づきが得られなかったが、地域の課題に向き合うことで、ビジネスにつながる課題が身近にあるということに気づけたことから、今後もそういう視点を大事にしていきたいという意見などをもらっている。また、企業からも好評で、これを機会に、社員がより成長して欲しいという意見などをいただいている。今年度の取組についても、昨年度をベースに、どのようなところをより改善していくか、相談しているところ。

（委員）地域産業界にとっても大事な取組であると思う。令和５年度も御尽力願う。

（委員長）大学の自己評価と事務局の評価案が異なるものとして、年度計画の 20 番については、賞の受賞や事業採択など、外部の評価を得た結果でもあり、計画を適切に進めてその成果が出ているという評価で、Ⅳで問題ないと考える。

（委員長）評価がⅡとなっている年度計画の 45 番。セキュリティは大事だが、外的要因でできなかったものに対し、自己評価がⅡとなっている。「代替案を検討し」とあるが、どのようなものか。

（大学）監視カメラは通信系が傷んでいて、集中管理しているところに画像が届かない等の不具合が出ていた。通信の設備はあるので後継機種で対応しようと考えたが、後継機種が入手できず、そこから違う方向を考えようとしたため、代替策の検討が遅れた。

（委員）代替案の実施ができなかったのがよくなかったのか、見当が遅れたのがよくなかったのか、代替案があっても実施はできなかったのではないか。

（大学）監視カメラによらず安全確保する方向性で考えたが、予算と手間の問題もあり、年度中に代替案を出すには至らなかった。既存のシステムを改修することも含めて検討を進めているところで、結果として、安全の確保に至っていないのでⅡという自己評価をした。

（委員）見通しがついているなら、評価を上げてもいいと思う。見通しがないなら、Ⅱのままかなと思う。

（大学）検討中であり、現時点で確定した手段はない。今年度中には実施にまで至りたい。

（委員長）悩ましいところ。広く見ればコロナの影響で、いろんなものが遅れている。今日のところは保留としておく。

（委員長）その他、関心事項について、委員の意見はどうか。

（委員）年度計画の７番について、素晴らしい取組だと思う。経済状況が理由で退学する学生が多い。この取組の前後で退学者の推移はどうか。実際に退学者を減らせているのであれば、Ⅲより良い評価となるのではないか。

（大学）退学者はこの５年は毎年 30 名前後でほぼ横ばい。コロナ禍の評価は難しく、対面での授業が困難であった一方で、リモートで授業を受けることができるというメリットもあった。表面的な数字には大きな動きはないというのが現状。

（委員）セーフティーネットシステムを作っていて、効果があるなら評価できる点かなと思った。このシステムを今後、どうしていくかということが考えられると、さらに良いのかなと思う。一方で、このシステムがあるから退学者数が横ばいに留まっているという材料を探されても評価は上がるのかなと感じた。

（委員）年度計画８番で、要支援学生は令和４年度は 76 名で、とてもたくさんお

られるという印象を持った。これだけの学生がいるということを把握し、支援するということを組織的にされており、素晴らしい取組だと思う。Ⅲではなく Ⅳでも良いのではないか。

（大学）76 名という数字そのものは前向きに捉えていて、本学は、よく気付きをしている傾向があり、全国平均より多い。

（委員）他大学ではどうか。同様の取組はなされているのか。

（委員）学生がつまずかないようにケアするというのは、他の大学でも気を配っていると思う。数字が多いということをポジティブに捉えているというのは、その通りで、やればやるほど見えてくる。そこに切り込んでいくということは、学生にとってはすごく心強いことだと思う。

（委員長）ここに出ている数字は、障害があるということではなくて、学習上、生活上、広い意味で支援が必要な学生という捉え方でよいか。

（大学）この数字は、診断書が出た方の数。原則として本人が自覚することが大事であり、教職員が気づいた場合に、本人と相談して、本人が納得したら診断を受けていただいて、診断書が出たら対応するというもの。プラスアルファとして、支援していく学生が、それ以外にもいると理解してもらえればよい。

（委員長）例えば適応障害とか、それに対して、カウンセリングをしたり、ケアをしていくとか、そういうことか。

（大学）その通り。症状が非常に多様であることから、画一的な対応は難しい一方で、一般学生との不公平感が出てもよくないので、そういったことにも配慮しながら対応している。

（委員長）どこの大学でも学生のケアは大事になってくるし、そういう人が増えているというのも事実。どこまで大学が対応できる体力があるかということが問われているんだろうと思う。ここまでで十分ということがない。きめ

細やかに対応されているなと思う。

（委員）年度計画の項目ではないが、特記事項として記載されている「その他、学生支援の取組」は、昨年度も野菜や弁当を配っていたが、今年度も、困窮する学生のサポートをされているということで、素晴らしい取組であると思う。これが、評価のどこにも出てこないということが残念。

（委員長）年度計画にないので判断理由や実績を書けないが、特記事項として書かれている。評価報告書にコメントとして記載することは可能なので、それを記載するようにする。

（委員）年度計画 32 番の女性限定の教員の公募について、今回の結果を踏まえて、今後どのように考えているのかということを書けないだろうか。社会は男女半分半分。よりバランスを合わせられるように、いろんな機会を捉えて、期待を込めて、取り組んでいただけないだろうかと思うところ。やっていただいたことは、第一歩として素晴らしいことだが、採用に至らなかった、その次をどのように考えていくかということ。

（大学）これは４回募集したが、採用予定日に着任できる応募者はいなかった。工学部としてもその科目を教えることのできる教員をなんとか確保しなければいけない状態で、できれば女性ということでやってきたが、女性研究者そのものの層が薄い分野もあることから、一旦女性限定を諦めて、仕切り直すこととし、女性限定の公募は別の機会に考えることとした。よって、今後どうするかということを記載しにくい状況にある。

（大学）大学全体として、他の学部では女性教員がおり、教員全体の 32%が女性である。工学部だけがずっと女性教員がゼロであったため女性限定での募集を行ったところ。いつまでも欠員にしておくわけにはいかないので女性限定での募集はやめたが、女性からの応募があり、同等の力量があれば、女性を優先的に採用するという姿勢はもっている。

（委員）ここを取り上げたのは、高専を立ち上げていく、そして多様性を重視し

ていくことを特色として考えられている中で、工学部と高専の親和性が高い。なので、開学に向けて今から採用していくことが必要なのではないかと思っていたところ。未来に向けても、難しい、数が少ない、というのはわかるが、そこはもう２歩ぐらい頑張っていただきたい。期待を込めてお伝えする。

（委員長）大学全体では 32%女性がいらっしゃると、もともと研究者の層が厚い分野は女性を採用できるが、もともと女性が少ない分野は、募集しても来てくれない。そこは悩ましいところで、どこも苦労されていると思う。今は、リケジョという言葉や女子大に工学部ができる時代なので、今後は女子学生が増えて、将来的には女性研究者が増えて、そこが広がれば、自然と採用が増える。それが先になりそうなので、女性限定の募集などやってはいるが、確かに、これは現実には難しい問題を抱えているんだなと思う。

（委員）いらっしゃらないところに、女性が一人入るのは大変。複数で募集されたらどうかと思った。

（委員長）これについては、意識高く持たれていると思うので、引き続き、検討いただければと思う。

２　令和４年度財務諸表について

・令和４年度財務諸表等について、大学から説明

（委員）大学として、この部分の数字をこういう風にしていきたいとか、この部分がウィークポイントといった点はあるのか。

（大学）大学によってどこに力を入れるかは異なると思うが、「人を育てる」という面、学生に対して十分に対応するという点について、職員数がかなり限られていることは課題だと考えている。事務職員がしっかりと大学全体を運営していく必要がある。

（委員長）参考資料で配布している認証評価について、改善を要する点として「大

学院課程における収容定員の超過及び未充足について、適切な定員管理の取組が求められる。」とあるが、年度計画にその項目がないので出てこない。このことについては、きちんと対応いただきたい。学部は入学者が足りているだろうとは思う。大学院は難しいところがあると思うが、定員を定めている以上、それを守る努力はしていただきたい。

（大学）必要であれば大学院の充足状況について、報告させてもらう。

（委員長）「公立大学法人滋賀県立大学の概況」に数字が出ているのかなと思う。今日の議題と関係しているわけではないが、こういうデータ集をいただいているので、そういう意味では、大学の現状を数字で見ることもできるのかなと思っている。

（委員長）ひととおりの資料の確認はできた。委員から他に御意見等あるか。

（委員）先ほどのⅡの評価となった項目と関係するが、セキュリティに気を配っていただきたいので、Ⅱという評価は仕方ないかなと思う。ただ、全体評価の中でⅡがあることから、全体評価がＢになるというロジックであると理解したときに、大学経営の努力をしていただているところをもう少しポジティブに評価できないのかという気がしている。

（委員長）今回の評価が、来年度からの新たな中期計画期間に向けてどう影響するのかということ。県からすれば、全体的に高い評価だとよくやっており、低い評価だとだめとなる。しかし、法人評価としては、評価が低いものをちゃんとするには、県に対し、県も努力して必要な予算をつける必要があるというメッセージにもなる。

（委員長）今日のところはここまでにして、後で意見があれば事務局までお願いする。

閉会